

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第92期 中間報告書

平成 27 年 4 月 1 日 - 平成 27 年 9 月 30 日

株式会社 **カネカ**

カガクで
ネガイを
カナエル会社

KANEKA



代表取締役 社長

角倉 護

株主のみなさまにおかれましては、
平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
2014年度から新たにスタートした
中期経営計画の進捗状況について、
ご説明申し上げます。

「R&D」、「グローバル」、「人の成長」に注力し、「変革と成長」を推進

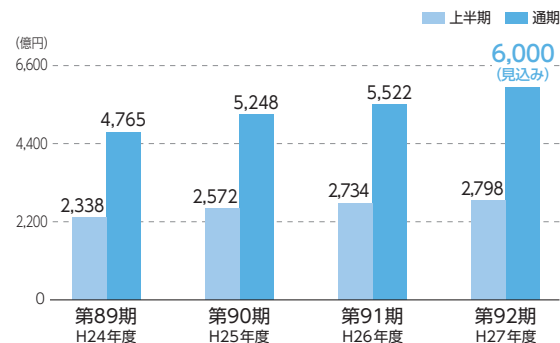
1. 中期経営計画の進捗状況

2015年度上半期の世界経済は、米国で消費主導による成長が継続し、欧州景気も緩やかに回復基調にありましたが、中国経済が減速し、新興国・資源国も力強さを欠く展開となりました。わが国経済は、景気は緩やかに回復しているものの、中国経済減速の影響が徐々に現れ始めております。このような状況のもと、当社グループの上半期の売上高は、海外事業が拡大し2,798億円(前年同期比2.4%増)と増収になりました。収益力の向上により、営業利益は192億円(前年同期比102.4%増)、経常利益は158億円(前年同期比64.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は99億円(前年同期比82.2%増)といずれも増益となりました。なお、中間配当金につきましては、1株当たり8円とさせていただきます。

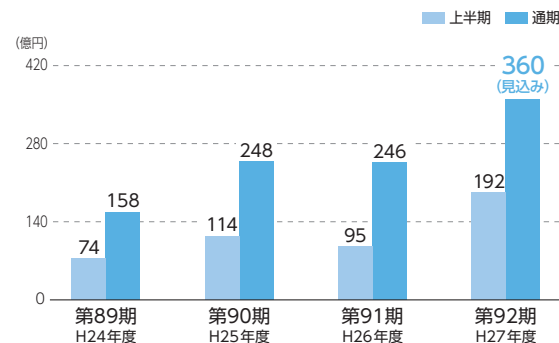
2015年度は全体として、カネカグループは新たな成長ステージに入っており、「変革と成長」に資する重点施策を進めてまいります。特に、「R&D」、「グローバル」、「人の成長」に注力し、R&Dへの積極的な資源投入、新規事業の立ち上げ、次期の大型テーマを育ててまいります。有機EL照明、バイオポリマー、オプトエレクトロケミカルズ、再生・細胞医療、アグリバイオ等の大型新規事業に積極的に研究開発費を投入し、新製品売上高を伸張させてまいります。

連結業績ハイライト

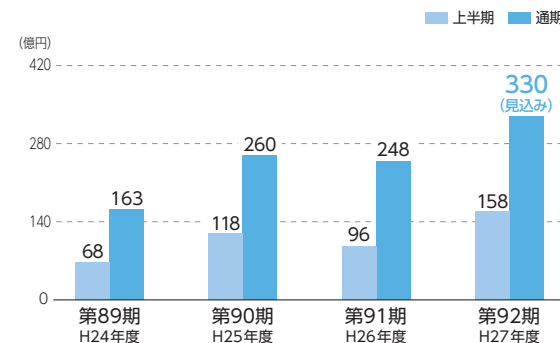
■ 売上高



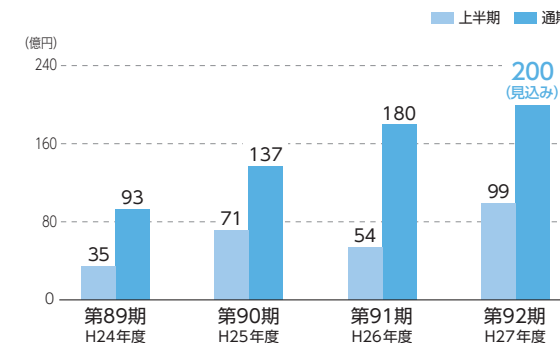
■ 営業利益



■ 経常利益



■ 親会社株主に帰属する当期純利益



2. 事業別の進捗状況

事業別では、機能性樹脂・エレクトロニクス・ライフサイエンスの重点分野への集中的な資源投入により、新規・既存の両分野で業績拡大を実現させようと考えています。機能性樹脂事業は、モディファイヤー及び変成シリコンポリマーをグローバル市場で拡販させていく計画であり、そのために、マレーシアで総額120億円の大型設備投資を決定しました。エレクトロニクス事業については、超耐熱ポリイミドフィルムのマレーシアでの生産課題も解消し販売が増加、また太陽電池では住宅用高効率品に特化する等事業構造改革を進行中であり、世界最高水準の変換効率(25.1%:実用サイズ5インチセルサイズ)を持つヘテロ接合タイプ^Qの太陽電池を上市し、好評を得ています。ライフサイエンス事業は、医療機器のグローバル展開強化、ジェネリック向けAPI(医薬品原体)の事業拡大、バイオ医薬事業の本格展開、機能性食品事業の拡大等もあり好調に推移しています。

化成品・発泡樹脂製品・食品・合成繊維等の既存コア事業群については、新製品投入、能力増強が寄与し、収益基盤は着実に強化されています。



カネカMSポリマー®(変成シリコンポリマー):
建築用シーリング材に使用される液状ポリマーとして、海外でも広く認知されています。



ヘテロ接合太陽電池が設置された住宅のイメージ

3. グローバル化の進捗状況

本年10月に欧州統括会社であるカネカヨーロッパホールディングカンパニーを設立し、米州、アジア、欧州の三極を軸とする地域統括機能を整備することができました。本年4月に設置した当社のグローバル企画部と連携して、現地視点に立った地域戦略と地域本社機能を強化し、新市場の開拓やM&A等を迅速に進めてまいります。海外での設備投資について、これまで重点的に進めてきたアジアで、エレクトロニクス・合成繊維の設備が業績に貢献してきています。本年度上半期には海外売上高比率が40%を超えましたが、今後は、欧米での設備投資を積極的に進めていくとともに、タイ、アフリカに新たな拠点の設立を進めていき、海外売上高をさらに伸ばしていく計画です。

不透明な経済環境が続きますが、下半期以降についても更なる成長を目指して、中期経営計画の実現、そして長期経営ビジョン『KANEKA UNITED宣言』に拘って経営の舵取りを行っていく所存でございますので、株主のみなさまにおかれましては、尚一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

用語解説

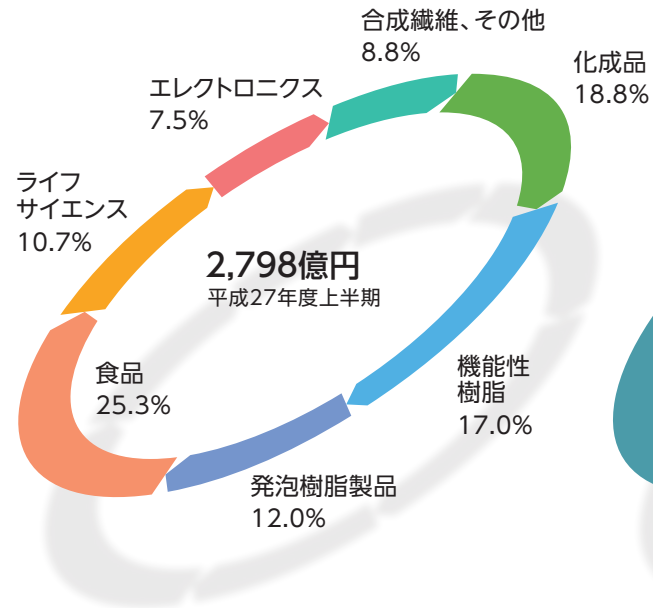


■ ヘテロ接合

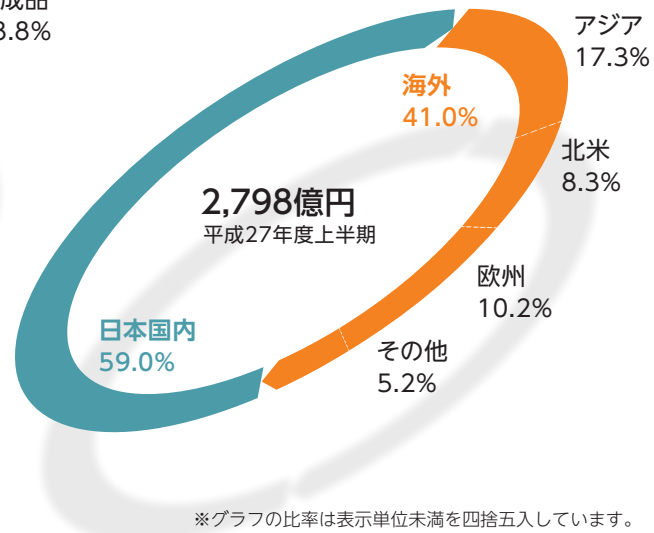
物質の異なる半導体材料を接合する技術で、結晶シリコンとアモルファスシリコンを組み合わせると変換効率低減の要因となる欠陥を減らしたり、電気に変換できる光の波長が異なる材料を組み合わせたりすることで変換効率を向上させることができる。

事業別の概況

事業別売上高構成比



地域別売上高構成比



※グラフの比率は表示単位未満を四捨五入しています。

機能性樹脂事業

主要製品 モディファイヤー、変成シリコンポリマー、耐候性MMA系フィルム

モディファイヤーにつきましては、欧州を中心に建築需要の落ち込みの影響を受け海外販売が伸び悩みましたが、製品差別化力の向上とコストダウンへの取り組みを強化するとともに、新製品の市場開発も進めたことで、利益は順調に拡大しました。変成シリコンポリマーにつきましては、オンリーワン製品としてユニークな品質特性への評価が高く、建築用途などで他素材からの置き換えが進み、海外市場を中心に販売が拡大しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を下回りましたが、利益は上回りました。



ハイパーライト®
(射出成形用エンジニアリング樹脂)：
従来の耐熱PET樹脂に加え、自動車外装部
品向けPC/PET系樹脂で軽量化を実現しま
した。

発泡樹脂製品事業

主要製品 発泡スチレン樹脂・成型品、押出法発泡ポリスチレンボード、ビーズ法発泡ポリオレフィン

発泡スチレン樹脂・成型品につきましては、農水産分野に加え土木分野でも販売が順調に拡大しましたが、押出法発泡ポリスチレンボードにつきましては、消費税率引き上げ後に落ち込んでいた住宅関連市場が持ち直してきてはいるものの回復のペースは遅く、需要も低調に推移しました。ビーズ法発泡ポリオレフィンにつきましては、欧州など海外市場での自動車分野を中心に販売量が増加しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。



カネライトフォーム®
(押出法発泡ポリスチレンボード)：
住宅や冷凍倉庫などの断熱材や、畳や扉の芯
材として広く普及している発泡素材です。

食品事業

主要製品 マーガリン、ショートニング、高級製菓用油脂、パン酵母、香辛料

食品につきましては、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、食の多様化に対応すべく技術革新を進め、ニーズを先取りした新製品の販売に積極的に取り組みました。また円安の進行等を背景に主要原料価格が高止まる中で、販売価格の修正や事業構造改革を進め、事業採算の向上に取り組みました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。



イニシャル(菓子専用機能性油脂)：
新規酵素の力で、半生菓子の焼きたてのおい
しさを維持する、世界初の機能性油脂です。

化成品事業

主要製品 塩化ビニール樹脂、塩ビ化合物、か性ソーダ、塩化物、塩ビ系特殊樹脂

塩化ビニール樹脂につきましては、国内需要は低調でしたが、海外向け販売が増加しました。塩ビ系特殊樹脂につきましては、海外市場を中心に好調に推移しました。特に塩素化塩ビは、本年3月に稼働した米国での生産能力増強設備が寄与しました。か性ソーダにつきましては、国内需要が低調に推移しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を下回りましたが、利益は上回りました。



カネビニール®ペースト(塩ビペースト樹脂)：
壁紙、床材、レザー、帆布、自動車部材などに
使用される糊状加工用の特殊樹脂です。

ライフサイエンス事業

主要製品 医療機器、医薬品(バルク・中間体)、機能性食品素材

医療機器につきましては、血液浄化システム事業の一部製品の販売が伸び悩みましたが、インターベンション事業は国内・海外向けの販売が堅調に推移しました。また欧米などグローバル市場での新製品の販売拡大や、消化器内治療領域など新領域での事業拡大にも注力しました。医薬中間体につきましては、販売量が増加し、API(医薬品としての有効成分を有する原体)やバイオロジクス分野において、グループ会社である大阪合成有機化学研究所やユーロジェンテック(ベルギー)の販売も順調に拡大しました。機能性食品素材につきましては、サプリメント市場における還元型コエンザイムQ10のヘルスケア効果の認知が着実に進み、販売量が増加しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

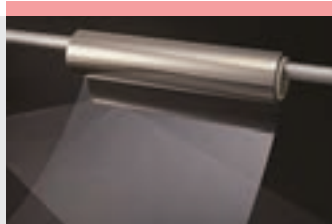


血管内治療用カテーテル:心臓、脳、四肢などの病変部血管に細いチューブを挿入して血管内で疾患を治療するカテーテル。PTCA(パーカテーテルなど治療法毎に多数の製品を開発しています。

エレクトロニクス事業

主要製品 超耐熱ポリイミドフィルム、光学材料、超高温伝導グラファイトシート、複合磁性材料、太陽電池

超耐熱ポリイミドフィルムと超高温伝導グラファイトシートにつきましては、昨年度の生産体制整備の遅れにより需要拡大に十分に答えられなかったことを踏まえ、マレーシア新工場の生産体制を強化して需要に応えるグローバル生産体制が整い、生産は順調に推移しました。中国スマートフォン市場の需要低調などの影響を受けて販売量はやや伸び悩みましたが、スマートフォンメーカーの新モデル立ち上げに伴って、販売は着実に拡大してきています。光学材料につきましては、需要が堅調に推移しました。太陽電池につきましては、消費税率引き上げ後の住宅関連需要の回復が遅れている影響を受けましたが、技術革新による世界最高レベルの変換効率をもつ新製品の市場開発が着実に進み、また生産体制見直しなどの事業構造改革を進めたことにより、事業採算が改善しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を下回りましたが、利益は上回りました。



KANEKA ITO FILM(透明導電性フィルム):タッチパネル用途に電極パターンが透けて見えない、光学特性に優れたITOフィルムです。

合成繊維、その他事業

主要製品 アクリル系合成繊維(カネカロン)

合成繊維につきましては、アフリカ市場での頭髪分野の需要が旺盛ななか、当社の高品質・高ブランド力により、フル生産フル販売の状況が継続しました。また円安が進んだことも寄与し、収益が大幅に拡大しました。マレーシアにおける新工場稼働により旺盛な需要に対応するとともに、コストダウンにも積極的に取り組んでいきます。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。



Kanekalon®(頭髪装飾用繊維):人毛に似た風合いを生かしヘアウィッグ、ドールヘアーに広く使われています。

四半期連結貸借対照表(要約) (単位:億円)

科目	第92期	第91期	
	平成27年9月30日現在	平成27年3月31日現在	
資産	流動資産	2,619	2,566
	固定資産	3,007	3,013
	資産合計	5,627	5,580
負債	流動負債	1,560	1,617
	固定負債	942	870
	負債合計	2,502	2,487
純資産	株主資本	2,801	2,746
	その他	325	347
	純資産合計	3,125	3,092
負債純資産合計	5,627	5,580	

Point

- 総資産は、前期末に比べ47億円増加し、5,627億円となりました。
- 有利子負債残高は、21億円増加し、1,125億円となりました。
- 純資産は、利益剰余金の増加等により、33億円増加し、3,125億円となりました。

四半期連結損益計算書(要約) (単位:億円)

科目	第92期	第91期
	平成27年4月1日から平成27年9月30日まで	平成26年4月1日から平成26年9月30日まで
売上高	2,798	2,734
営業利益	192	95
経常利益	158	96
税金等調整前四半期純利益	153	91
親会社株主に帰属する四半期純利益	99	54

Point

- 売上高は、前年同期に対し65億円の増収(前年同期比2.4%増)となりました。
- 営業利益は、前年同期に対し97億円の増益(前年同期比102.4%増)となりました。
- 経常利益は、前年同期に対し62億円の増益(前年同期比64.8%増)となりました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に対し45億円の増益(前年同期比82.2%増)となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位:億円)

科目	第92期	第91期
	平成27年4月1日から平成27年9月30日まで	平成26年4月1日から平成26年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	316	111
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 228	△ 199
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 17	40
現金及び現金同等物の四半期末残高	354	289

Point

- 営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により316億円となりました。
- 投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により228億円となりました。
- 財務活動による資金の支出は、配当金の支払や自己株式の取得による支出等により17億円となりました。
- この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末の残高は、354億円となりました。

※詳細の情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

未来をつなぐ

カネカグループのバイオ医薬品事業
の中核を担うユーロジェンテック社

ユーロジェンテック本社

【会社概要】

会社名	Eurogentec S.A. (ユーロジェンテック S.A.)
所在地	ベルギー リエージュ市
設立	1985年
資本金	11百万ユーロ
主な事業内容	医薬・診断薬向け及び研究試薬向けタンパク、核酸、ペプチドの製造販売

❖ ユーロジェンテック社に資本参加

当社は、早くから微生物培養によるタンパク質製造の基礎技術開発や、次世代型抗体医薬である低分子化抗体の生産技術開発などにも取り組み、これらの技術を活用して、バイオ医薬品領域での事業を早期に構築するため、パートナーを求めてきました。

ユーロジェンテック社は、1985年に設立され、バイオテクノロジーをベースとした事業分野で20年以上の経験と実績がありました。日米欧に拠点を有し、タンパク質、核酸、ペプチドの3つの事業分野で、バイオ医薬品や検査診断薬の受託製造および研究試薬の製造販売を行い、その品質と信頼性は市場で高い評価を得ていました。当社独自のバイオ技術とユーロジェンテック社の事業基盤を組み合わせることにより、カネカグループのバイオ医薬品事業の早期育成を目指して、2010年にユーロジェンテック社に資本参加しました。

ある物質を利用することにより、低分子医薬品より安全性が高く副作用も少ない利点があります。また、多くの病気において治療効果があると同時に、化学合成された低分子医薬品では改善の見られなかった病気にも治療効果があることが証明されています。

バイオ医薬品の医学的進歩により、癌、糖尿病、C型肝炎、慢性腎不全のような慢性病だけでなく、血友病、ファブリ病、発育不全、多発性硬化症、クローン病などの稀な病気も治療対象となっています。

❖ ユーロジェンテック社の強み

当社が資本参加した当時のユーロジェンテック社は、いろいろな事業を手がけていましたが、将来の成長分野であるバイオ医薬品事業へ必要な資源の集中化を進めました。

2011年には米国FDA(食品医薬品局)による査察を完了し、米国販売用バイオ医薬品の受託製造が可能となり、その後もFDAによる定期査察に合格しています。これをきっかけに米国を中心に顧客からの受託製造案件数が増加し、ユーロジェンテック社の業績が向上しました。本年4月には遺伝子医薬品であるプラスミドDNAの量産化に成功したことを発表しました。プラスミドDNAは、現在有効な治療法がない遺伝性疾患、癌、アレルギー疾患、感染症などに対する遺伝子治療薬やDNAワクチンとして利用されるバイオ医薬品であり、より高い治療効果が期待されています。

❖ バイオ医薬品事業の拡大を目指して

当社は、長期経営ビジョン『KANEKA UNITED宣言』で「健康」分野を重点戦略分野のひとつと掲げています。その中でもバイオ医薬品事業は今後市場拡大が期待される分野として注力してきましたが、今後も、カネカグループの総力を結集させて事業拡大を進めていきます。

ユーロジェンテック社創立30周年

本年10月2日にベルギーにてユーロジェンテック社創立30周年記念式典を執り行い、当社からも経営トップを始めとする関係者9名が参加し、同社の30周年を祝いました。

ベルギー・リエージュ大学からの独立で始まったユーロジェンテック社は、これまでの30年間で着実に事業拡大を果たしてきました。これからの更なる成長に向けて、カネカヨーロッパホールディングカンパニーを通じてカネカグループの資源やノウハウを最大限に活用し、日・欧・米市場を中心にグローバルな事業展開を加速していく決意を固めました。また、同式典には、在ベルギー日本大使館の石井正文特命全権大使に御列席いただき、大使館と引き続き連携しながら地域コミュニティと共に発展していくことを確認する場となりました。



ユーロジェンテック社デルワルトCEO

カネカの“絆”（つなぐ）とは… 当社は「もっと、驚く、みらいへ。」のコンセプトの下、「未来をつなぐ」「世界をつなぐ」「価値をつなぐ」「革新をつなぐ」「人をつなぐ」の5つの“絆”（つなぐ）を、目指す企業像としています。

Column

バイオ医薬品って何？
今までの医薬品とどう違うの？

バイオ医薬品とは、有効成分がタンパク質（成長ホルモン、インスリン、抗体など）や核酸（DNA、RNAなど）等の由来であり、バイオテクノロジー（遺伝子組換え、細胞融合、細胞培養など）により産生される医薬品のことをいいます。これらは、化学合成された低分子医薬品に比べて分子量が大きく、構造が複雑ですが、生体内に

平成27年9月30日現在

アジア地域での事業拡大に向けた設備投資加速 5月

当社は、アジアでの旺盛な需要に対応するとともに更なる事業拡大を目指して、カネカマレーシアSdn.Bhd.敷地内に、変成シリコンポリマーの生産設備の新設と、モディファイヤーの生産設備の増設を決定しました。総投資額はインフラ投資を含めて約120億円です。

変成シリコンポリマーは、経済成長が続くアジアでの市場創出の取り組みによる高機能接着剤、シーリング材の旺盛な需要に対応して供給力を確保します。生産能力は年産9,000トン、2017年初頭の稼働予定です。

モディファイヤーは、アジアでの塩ビ樹脂及びエンブラ樹脂需要拡大に伴うモディファイヤー需要増に対応した供給力を確保するために、年産20,000トンの増設を行い、2017年初頭の稼働を予定しています。

今回の設備投資により、機能性樹脂事業の拡大を加速させ、アジア地域での売上金額を100億円以上伸ばしてまいります。



カネカマレーシアSdn.Bhd.本社

2015北海道マラソンに協賛 8月 CSR

日本で唯一、夏に開催される「北海道マラソン」。本大会へ協賛して3年目、第29回の今回も選手が着用するゼッケン、距離表示板、ゴールテープなどに当社のロゴが入り、沿道ののぼりや手旗とともに大会を盛り上げました。併せて開催された「北海道マラソンEXPO」ではブースを設けて、会社紹介、還元型コエンザイムQ10やメロンパンの提供をはじめ、ランニングフォームのチェック、疲労測定などを通じアスリートへの応援や地域の方々とのコミュニケーションに取り組みました。



2015北海道マラソンの様子

国内ネットワーク

化成品	■ 昭和化成工業(株)	■ 龍田化学(株)	■ サンビック(株)
機能性樹脂	■ セメダイン(株)		
発泡樹脂製品	■ カネカ北海道スチロール(株)	■ カネカ東北スチロール(株)	■ カネカ関東スチロール(株)
	■ カネカ西日本スチロール(株)	■ 関東スチレン(株)	■ (株)羽根
	■ 高知スチロール(株)	■ カネカフォームプラスチック(株)	■ カネカケンテック(株)
	■ 九州カネライト(株)	■ 三和化成工業(株)	■ (株)ソーラーサーキットの家
	■ イビデン樹脂(株)		
食品	■ カネカ食品(株)	■ (株)カネカフード	■ (株)東京カネカフード
	■ 太陽油脂(株)	■ 新化食品(株)	■ 長島食品(株)
ライフサイエンス	■ (株)カネカメディックス	■ (株)大阪合成有機化学研究所	■ (株)リバーセイコー
エレクトロニクス	■ 栃木カネカ(株)	■ カネカソーラーテック(株)	■ (株)ヴィーネックス
	■ OLED青森(株)		
合成繊維、その他	■ (株)カネカ高砂サービスセンター		
	■ カネカ保険センター(株)		

海外ネットワーク

ヨーロッパ	■ カネカベルギーN.V. (注)2	■ カネカファーマヨーロッパN.V. (注)2	■ ユーロジェンテックS.A. (注)2
	■ カネカモディファイヤーズドイチュラントGmbH		
アメリカ	■ カネカアメリカズホールディングInc.	■ カネカノースアメリカLLC	■ カネカファーマアメリカLLC
アジア/オセアニア	■ カネカシンガポールCo.(Pte)Ltd.	■ カネカマレーシアSdn.Bhd.	■ カネカエペランSdn.Bhd.
	■ カネカペーストポリマーSdn.Bhd.	■ カネカイノベイティブファイバースdn.Bhd.	■ カネカアピカルマレーシアSdn.Bhd.
	■ カネカMSマレーシアSdn.Bhd.	■ PT.カネカフーズインドネシア	■ カネカタイランドCo.,Ltd.
	■ 蘇州愛培朗緩衝塑料有限公司	■ 鐘化(佛山)高性能材料有限公司 (注)1	■ 青島海華纖維有限公司
	■ 鐘化企業管理(上海)有限公司	■ 鐘化貿易(上海)有限公司	

(注)1. 平成27年4月1日に鐘化(佛山)化工有限公司は鐘化(佛山)高性能材料有限公司に社名変更しました。
 (注)2. 平成27年10月1日にカネカヨーロッパホールディングカンパニーN.V.を設立し、カネカベルギーN.V.、カネカファーマヨーロッパN.V.及びユーロジェンテックS.A.を同社の傘下に配置しました。

■印は連結子会社、■印は持分法適用関連会社であることを示します。
 連結子会社の数 64社 (上記以外に連結子会社が7社あります。)
 持分法適用関連会社の数 3社

● 会社の概要

社名 株式会社 **カネカ** (KANEKA CORPORATION)
 本店 〒530-8288
 大阪市北区中之島二丁目3番18号
 TEL (06)6226-5050(代表)
 設立年月日 昭和24年9月1日
 資本金 33,046,774,709円
 ホームページ <http://www.kaneka.co.jp/>

● 役員

代表取締役会長	菅原 公一	常務執行役員	井口 明彦
代表取締役社長	角倉 護	常務執行役員	水澤 伸治
取締役副社長	永野 広作	常務執行役員	川勝 厚志
取締役専務執行役員	中村 敏雄	執行役員	上田 恭義
取締役専務執行役員	亀本 茂	執行役員	武岡 慶樹
取締役専務執行役員	田中 稔	執行役員	落合 計夫
取締役専務執行役員	岩澤 哲	執行役員	丸藤 峰俊
取締役専務執行役員	天知 秀介	執行役員	藤井 一彦
取締役専務執行役員	亀高 真一郎	執行役員	鷺見 泰弘
取締役専務執行役員	石原 忍	執行役員	牧 春彦
取締役(社外)	井口 武雄	執行役員	穂谷 文則
取締役(社外)	毛利 衛	執行役員	榎 潤
監査役(常勤)	松井 英行	執行役員	青井 郁夫
監査役(常勤)	岸根 正実	執行役員	泥 克信
監査役(社外)	塚本 宏明	執行役員	木村 雅昭
		執行役員	西村 理一
		執行役員	岡部 貫
		執行役員	小森 敏生

● 株式の状況

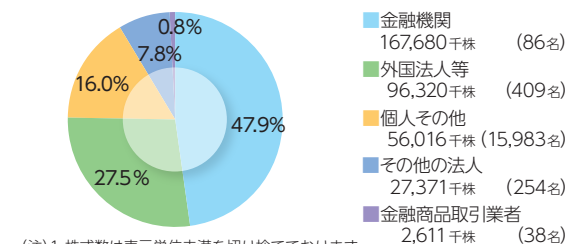
発行可能株式総数 750,000,000株
 発行済株式の総数 350,000,000株
 株主数 16,770名
 1人あたり平均持株数 20,871株

● 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険相互会社	15,570	4.67
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,486	4.65
株式会社三井住友銀行	15,458	4.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	14,962	4.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	14,877	4.47
明治安田生命保険相互会社	13,125	3.94
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,544	3.47
三井住友海上火災保険株式会社	10,524	3.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,262	2.18
BNYML-NON TREATY ACCOUNT	6,922	2.08

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨てております。
 2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。
 3. 上記のほか、当社が保有している自己株式が16,921千株あります。

● 所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨てております。
 2. 比率は小数第二位を四捨五入しております。

● WEBサイトのご案内

<http://www.kaneka.co.jp/>

カネカ



IR情報

社長メッセージや適時開示情報・財務情報などを掲載しています。

カネカCM
 スペシャルサイト
 CM動画も
 ご覧いただけます。

街のいたるところで
 活躍している
 カネカ製品を
 ご紹介しています。



● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年	
定時株主総会	6月	
基準日	定時株主総会	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告方法	電子公告 http://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html	
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (お問合せ先) TEL 0120-094-777(通話料無料)	

(注) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてお取次ぎいたします。

3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

〈カバーアート〉アーティスト：曾谷朝絵
 ・タイトル：Splash
 ・制作年：2015

